ZAIDAN Report

第7号　2025年3月

発行：公益財団法人
太陽生命厚生財団

【Contents】

「都城三股農福連携協議会」様の取り組みを紹介します。

「ZAIDAN Report」第7号では、「都城三股農福連携協議会」様の活動をご紹介します。

地域において業種横断的な連携による「農福連携事業」を通じ、フレイル世代の高齢者一人ひとりが自分らしく暮らしていける地域共生社会を実現する施策の一環として、コミュニティ農園における「農福リハビリ」の実施や、認知症予防・改善のため勉強会の開催等に、当財団の2024年度事業助成を活用して取り組まれています。

「都城三股農福連携協議会」様についてご紹介

＜活動の理念＞
【協議会活動理念】 －ひとりひとりが、自分らしく暮らしてゆける環境と地域づくり－
【認知症介護課題解決プログラム 運用理念】－当事者とその家族の苦痛と苦悩を緩和する－

【岡元一徳　代表理事】

- 当協議会は、岡元一徳代表理事が、お父様の急逝とお母様の認知症介護のため東京よりUターン移住となった際に、お母様のために農作業によるリハビリを考案したことが活動の原点となり、専門医師による検証・体系化を目的に、認知症疾患医療センターと共に、2017年に生産農家が発起人となり設立した地域初の農福連携協議会です。
- 地域の認知症当事者とその家族が抱える介護課題に対し、「農の医療的・福祉的活用」により、本質的な課題解決のために当事者の「生きがい(役割)」づくりとQOL(生活の質)向上、家族の心理的負担を軽減するための支援活動を展開しています。
- 更なる地域課題への対応を推進し、多様な背景をもつ当事者が、この活動モデルを通じて人権を擁護し、自己実現しながら、相互理解を深め、共生できる豊かな地域社会の実現を目指しています。

【活動のきっかけとなったお母様】

【農作業による認知症介護課題解決プログラム 小麦の収穫】

「農福連携」を通じた共生できる豊かな地域社会の実現に向けて

- 軽度の農作業による認知症介護課題解決プログラムは、認知症の研究・臨床経験50年以上のキャリアをもつ認知症専門の精神科医の監修の下に開発し、協働農園を病院と介護事業所に設置のうえ、認知症高齢者と共に3年間の試験運用を実施し、国内初認知症状改善のエビデンスを採取しました。
- プログラムにより新たな農福連携のロールモデルを構築し、認知症介護で苦悩されている当事者とその家族、関係機関へのソリューションとして確立し、全国各地にて展開すべく取り組んでいます。

＜これまでの活動成果や実績など（一部抜粋）＞
＊農作業による認知機能改善の成果を日本補完代替医療学会にて発表
＊「農の医療的・福祉的活用」の理念が、現行の農林水産政策へ反映
＊厚生労働省 九州厚生局 第二回 地域共生セミナー 基調講演に登壇
＊いたばし農福連携キッチンを主催（板橋区社会福祉協議会、東京都健康長寿医療センター研究所と連携）
＊農作業によるストレス軽減テスト －アグリヒーリング－ 実施
（順天堂大学大学院 緩和ケア研究室,NPO法人ユメソダテ,農林水産省 農福連携推進室と連携）
＊会員数8,000名超となる国内最大のSNSグループ「農福連携ネットワーク」を設立、運用中
＊「認知症介護の苦しみか解放されるための勉強会」を年間 40回程度開催中

【農福連携ワークショップ 「わらじをつくろう」
作業療法士との作業】

【小麦の収穫風景】

【車椅子での農園作業】

【農園作業、花の定植】

【認知症専門 精神科医師
三山吉夫 理事】

【地域住民への農園開放　小麦の播種】

【板橋区農福連携シンポジウム
ボランティアセンターにてプログラム実施】

【いたばし農福連携キッチン　集合写真】

今回の助成応募の背景

●フレイル世代の高齢者の軽度な症状は、医療・福祉制度や介護的側面からは「未病」状態として扱われ、いわゆるグレーゾーンに位置し、公的サービスを受けることは出来ない状態です。
●「未病」の高齢者が集える場所であることと共に、認知症の初動対応の重要性に着目し、多世代が参加できる交流の「居場所」として、第三の地域型コミュニティ農園は、有益なサードプレイスになり得ます。
●農作業によるフィールドワークと認知科学に基づいたプログラムの平行学習により、効果的な認知機能改善を促すための環境整備のため、今回の応募に至りました。

今回の助成による成果

●これまでも地域型コミュニティ農園の必要性を検討していましたが、設置には、トイレや水道などの設備、周囲環境の安全性の問題がありました。
●この度、地域内NPO法人との連携により、同NPO法人が管理する施設を運用できることで、適切な場所と施設の確保が可能となり多世代が交流できるコミュニティ農園を整備することが出来ました。
●全国有数の農業振興地域から、新たな認知症高齢者の課題解決の手法を発信して行きたいと思います。

【開設作業風景】

【見学者向け催事イベント】

地域版コミュニティ農園開設 !!

【開設作業　集合写真】

【定植作業】

【認知症介護課題解決プログラム　実施風景】

今後の抱負など･･･

●2024年12月、政府は認知症施策推進本部にて「新しい認知症観」の理解促進を重要政策として閣議決定しました。従来の「認知症になると何もできなくなる」という誤解や偏見をなくし、誰もが認知症を自分事として捉え、理解を求めながら自分らしい暮らしを続ける社会を目指すものです。
●私たちの手法は、この政策動向が示す認知症につての価値観の転換を支援し根本的な解決へ導く、先駆的克つ、画期的な取組であると自負しています。本プログラムによる新たな農福連携による認知症介護の課題解決に向けて、以下の新たな取り組みを積極的に推進して行きます。
＊全国での認知症介護の課題解決プログラムの実施
＊課題解決プログラムのオンラインコンテンツの政策と実施
＊多様な背景を抱える当事者に向けてのプログラム更新
●2025年4月、都内において、「認知症介護の課題解決プログラム」の一般公開勉強会を開催します。地域外では、初めての外部公開となり、首都圏において認知症介護で苦悩を抱える皆様にコンテンツを提供して行きます。